

イベントの情報があれば、このスペースをご利用下さい

スター・ウィークのテーマソングは「COSMOS」
星空を歌う音楽ユニット・アクアマリンの、夏の星空によく似合う素敵な歌。
詳しくはアクアマリンのサイトへどうぞ！ <http://aqumari.com/>

スター・ウィーク掲示板「今、星をみています」
スター・ウィークの7日間、どこかでみなさんと同じように星空を
星空を見上げている人が、きっといるはず。そんな「誰か」と
つながってみませんか？



施設・団体名を入れて
イベントなどでお配り下さい

-星空と、夜更かししよう-

スター・ウィーク

～星空に親しむ週間～

8月1日～7日

スター・ウィークとは…

バード・ウィーク(愛鳥週間)があるのなら、
「スター・ウィーク」があつてもいいな…
子どもも大人も、だれもが気軽に星空を
見上げてほしい、そんな想いから始まった
星空に親しむ週間です。



主催:スター・ウィーク実行委員会
後援:自然科学研究機構 国立天文台・(公財)天文学振興財団
協力:PAONavi準備会議、日本プラネタリウム協議会
日本公開天文台協会
<http://starweek.jp/>
～2021年版～

★自分の目でみつけてみよう★

☆織姫星・彦星(おりひめぼし・ひこぼし)

頭の上を見上げると、明るい星が3つ、ベガとデネブとアルタイルで「夏の大三角」と呼ばれている、大きな三角形ができます。その中の「こと座のベガ」が織姫星、「わし座のアルタイル」が彦星です。空の暗いところなら、七夕のお話のとおりに、2つの星の間に天の川が見えます。

☆天の川（あまのがわ）

月明かりの少ないころ、街をはなれて空の暗いところに行くと、天の川が見えることがあります。

ほんやりとした、細長い雲のように見えますが、その正体は、たくさんの星の集まりです。

☆流れ星（ながれぼし）

毎年8月12日ごろは、流れ星がよく見られます。

「ペルセウス座流星群（りゅうせいぐん）」と呼ばれます。2021年は、13日に日付が替わってから明け方までが、流れ星に出会えるチャンスです。月明かりもないおすすめです。

流れ星は、空のどの方角にも現れるので見晴らしの良い方向を向いて、のんびり待ってみてください。

～惑星を見よう！～

今年のスター・ウィークの時期は、南東の空に木星と土星が並んで見えます。望遠鏡があれば、2つの惑星の様子を見比べることができます。少し夜更かしして、明るく輝く姿をご覧ください。

～二重星（にじゅうせい）～

目で見ると1つの星なのに、望遠鏡で見ると2つ星が見える、そんな「二重星」と呼ばれる星が、たくさんあります。特におすすめは、はくちょう座のくちばしの所にある「アルビレオ」という星です。青と黄色の星が見えます。



～この星空が見えるのは～
8月1日夜9時ごろ
15日夜8時ごろ
31日夜7時ごろ

★この図のみかた★
⊕印のついているところが頭の真上です。
見たい方角を向いて、その見たい方角の字が
正しく見えるように手前に回して
空と見くらべてみてください。

8月の星空

北

★星を見に行く時の持ち物★

☆星の場所を知るために

→このリーフレットや星座早見盤

☆夜は暗い！足元は大丈夫？→懐中電灯

(赤いセロファンで光を弱くしてね)

☆寝転がって見よう→マット

(安全なところに寝転がってね)

☆夏でも夜は寒い→あたたかい服

☆その他→虫よけ、時計、などなど

(夜でかける時は、必ずおとなの人といっしょに！)

★伝統的七夕を楽しもう★

7月7日の七夕は梅雨のくもり空で、なかなか星が見えませんね。

実は、江戸時代まで使われていたカレンダーは、現在のものと仕組みがちがい、日付も1か月ほどずれがあります。

昔のカレンダーでの7月7日（伝統的七夕）は、今年は8月14日です。月遅れの七夕（8月7日）も入れると、あと2回七夕を楽しめます。

部屋や身の回りの明かりを消して、普段より暗くなった夜空で、昔の人たちの気持ちになって、七夕を楽しんでみませんか？

★スター・ウィークは27回目★

1995年からはじめたスター・ウィークは今年で27回目になりました。*

みなさんが気軽に

星空を見上げる

きっかけになったら、

とてもうれしいです。



2021年のキャッチコピーは
「星空と、夜更かししよう」です

東京都の松浦紬乃さんの作品が選ばされました。

「仕事が理由の夜更かしが増えました。

楽しい夜更かしをしたいです。」

というメッセージを頂きました。スター・ウィークの間は、ぜひ星空と楽しい夜更かしができますように。

南

～月のようす～
8月 8日 新月 8月16日 上弦
8月22日 満月 8月30日 下弦